

2023年卒  
Vol.04

## 2月1日時点の就職意識調査

キャリアス就活 2023 学生モニター調査結果 (2022年2月発行)

いよいよ来月に採用広報解禁を控えた2023年卒就職戦線。学生の最新動向を知るべく、キャリアス就活・学生モニターを対象に、2月1日時点での準備状況などを尋ねた。広報解禁前にもかかわらず内定率が2割に上るなど、早期化の傾向が見て取れる。

### 1. 就活解禁1カ月前の不安

- 「不安を感じない」という学生は4.1%。多くが様々な不安を感じている
- 「希望する企業から内定をもらえるか」76.1%、「内定をもらえるか」71.4%に集中

### 2. インターンシップ等(※)の参加状況

- 1日以内のプログラム参加者は9割超(90.7%)。5日間以上は2割台(23.5%)
- 全体の平均参加社数11.3社のうち、就職したいと思った企業は3.2社

### 3. 2月の行動予定

- 「自己分析や選考試験対策をする」が最多(61.0%)。僅差で「本選考を受ける」(59.7%)
- 「エントリーを決めている企業がある」80.4%。1カ月で約10ポイント増。平均8.6社

### 4. 企業を判断するために知りたいこと

- 就職先候補の判断材料は「仕事内容」を筆頭に、「福利厚生」「社風」など多岐にわたる

### 5. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況(※)

- 「本選考を受けた」65.7%。前年より5.4ポイント増加。受験社数は平均3.5社
- 「内定を得た」20.2%で、前年同期(13.5%)を上回る。活動終了者は全体の3%程度

### 6. 志望企業の選考スケジュールの認知状況

- 約7割強(69.6%)が本命企業のスケジュールを認識。内定取得予想時期は「6月前半」最多
- 企業の動き「早過ぎる」と感じる学生が約4割(39.3%)

### 7. 合同企業説明会/学内企業説明会への参加予定

- 3月以降、合説に「複数回参加する予定」37.0%、「1回は参加する予定」22.4%

### 8. 働き方についての考え

- 「専門性を高めるよりも幅広い業務を経験したい」「出世よりも自分のペースで働きたい」

### 9. Uターン就職の希望状況

- Uターン就職希望者が5年ぶりに3割超(35.7%)。コロナ禍で変化

※「インターンシップ(就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1日以内のプログラムも含めて調査  
※「内定」には、内々定を含む

## 調査概要

- 調査対象 : 2023年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)  
回答者数 : 1,319人(文系男子430人、文系女子402人、理系男子340人、理系女子147人)  
調査方法 : インターネット調査法  
調査期間 : 2022年2月1日~7日  
サンプリング : キャリタス就活2023学生モニター

## 1. 就活解禁 1 カ月前の不安

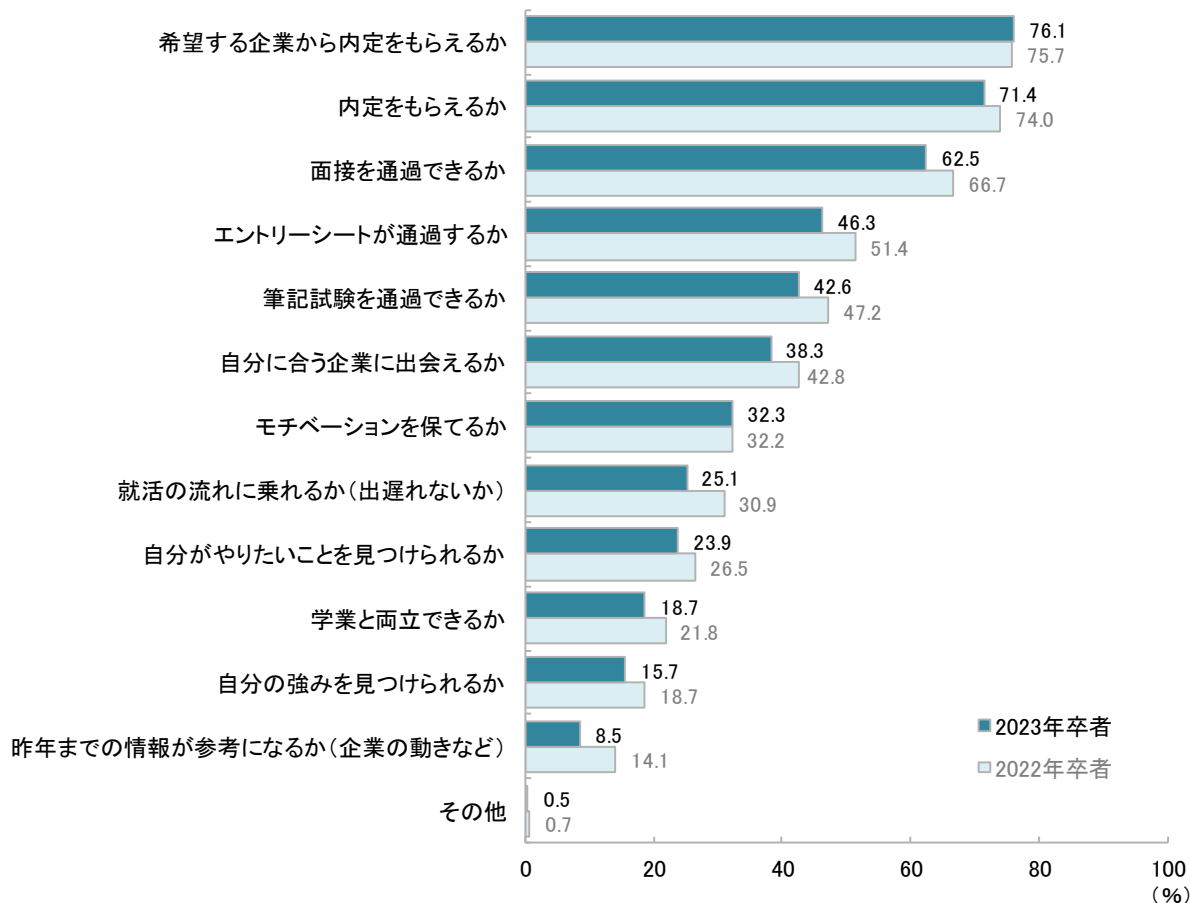
3月の就職活動解禁を目前に、就職活動への不安について尋ねた。「不安を感じない」という回答はわずか4.1%で、多くの学生がなんらか不安を感じている。

具体的にどのような不安を感じているのか、あてはまるものをいくつでも選んでもらったところ、最も多かったのは「希望する企業から内定をもらえるか」で、7割強が選んだ(76.1%)。次いで「内定をもらえるか」(71.4%)が続き、内定獲得への不安が上位を占めた。

選考試験への不安に注目すると、面接(62.5%)、エントリーシート(46.3%)、筆記試験(42.6%)の順。面接への不安が大きく、苦手意識をもつ学生が多いことを示している。

前年調査と比較すると、順位に大きな変動はないが、全体的にポイントが下がっている。インターシップ等のプログラムを通して企業と接点を持っている学生が多いことや、すでに本選考の経験を有している学生が多いことなどで(詳細は後述)、就職活動への不安は少し和らいでいるようだ。

### <就活解禁1カ月前に感じている不安>



### ■就職活動への不安に関して

- 3月から本格的に始まるということで、自分が他と比べて遅れをとっていないかとも不安。 <文系女子>
- やはり内定がとれるかどうかが一番の不安要素です。まだ時間が残されているうちに少しでも行動していきたいと思います。 <文系男子>
- 周りに就活生がおらず、一人で就活をすることに対して不安が大きいです。 <理系女子>
- コロナウイルスの影響で、企業に直接訪問することなくエントリーし面接を受けていくことに不安を感じる。 <理系男子>
- 不安ではあるが、1社内定があるため、心に余裕がある状態で臨むことができる。 <文系女子>

## 2. インターンシップ等の参加状況

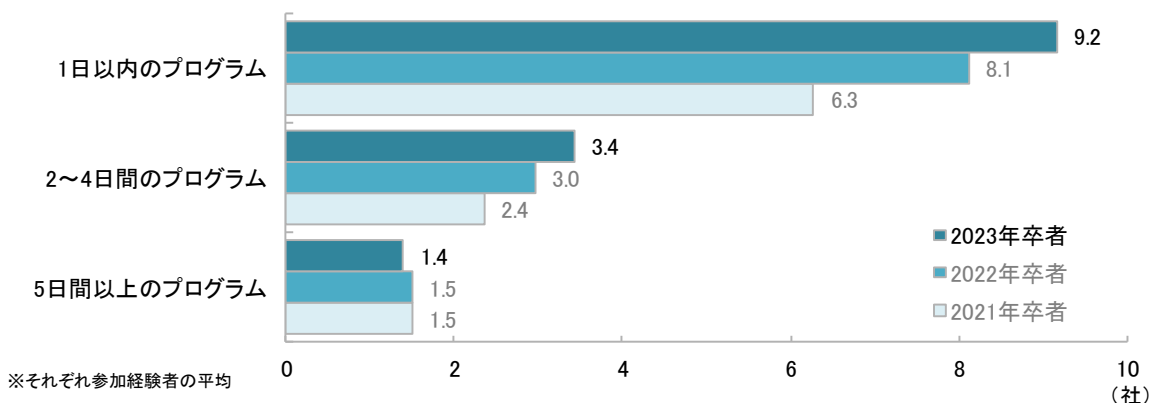
2月1日時点でのインターンシップ等の参加状況を、プログラム日数ごとに見てみる。「1日以内」のプログラムへの参加者が多く、9割を超える(90.7%)。参加社数の平均は9.2社で、前年同期(8.1社)より、さらに増加した。「2~4日間」の参加者は5割強(56.7%)で、平均参加社数は3.4社。「5日間以上」は2割台(23.5%)にとどまり、社数も減少(1.5社→1.4社)。長引くコロナ禍で長期プログラムの開催が難しく、短期プログラム中心の傾向がますます強まったことが見て取れる。

### <プログラム日数別参加状況>

	全体	(2022年卒者)	(2021年卒者)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラムに参加	90.7	90.6	88.5	92.6	89.3	89.4	91.8
2~4日間のプログラムに参加	56.7	58.1	51.2	59.3	54.0	56.8	56.5
5日間以上のプログラムに参加	23.5	24.1	34.9	19.3	19.2	30.6	31.3

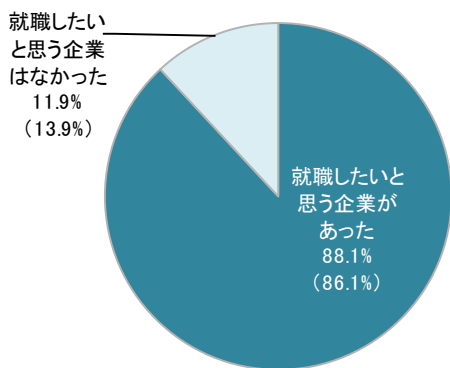
\*オンライン形式も含む(以下同)

### <プログラム日数別参加社数>



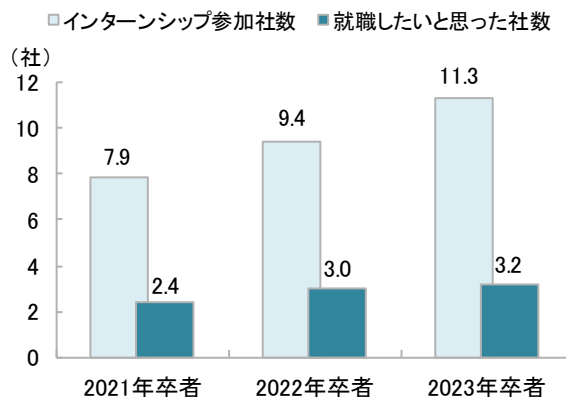
プログラム日数を問わず、参加した結果、就職したいと思う企業があったかどうか尋ねたところ、9割近くの学生が「あった」と回答(88.1%)。インターンシップ平均参加社数11.3社のうち、就職したいと思った企業は3.2社で、参加企業の3割弱に相当する(28.3%)。参加社数は1.9社増加したものの(9.4社→11.3社)、就職したいと思う企業数は微増にとどまった(0.2社増)。数多く参加する中で、参加した企業間で比較検討し、慎重に自分に合う企業を選ぼうとしている様子が感じられる。

### <インターンシップ参加企業への就職意向>



※( )内は2021年2月調査の数値

### <就職したいと思った社数>

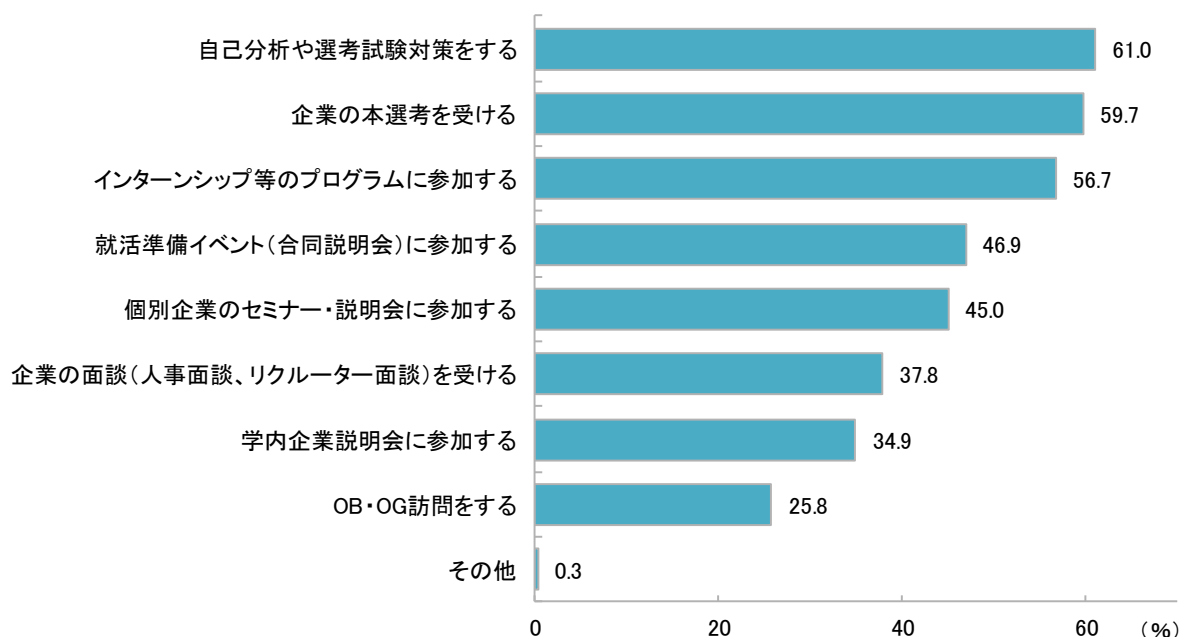


※「参加社数」は日数にかかわらず参加経験者を分母に計算

### 3. 2月の行動予定

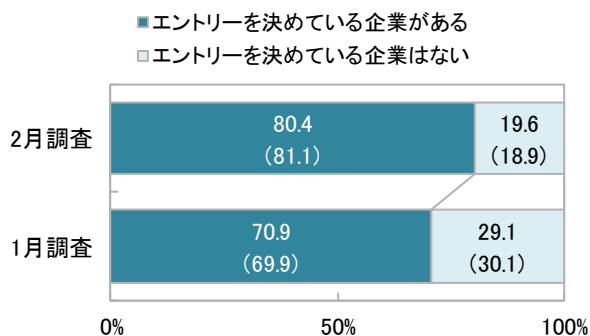
3月1日の就職活動解禁までの1カ月間をどのように過ごす予定なのか、複数回答で尋ねた。最も多いのは「自己分析や選考試験対策をする」で、約6割が選んだ(61.0%)。就職活動が本格化する前に、エントリーシートや面接、筆記試験などの選考対策を進めておきたいと考える学生が多いのだろう。僅差で「企業の本選考を受ける」(59.7%)が続く。解禁が近づき、インターンシップ参加企業から早期選考の案内を受けるケースも増加していると見られる。「インターンシップ等のプログラムに参加する」も5割強に上り(56.7%)、3月の解禁を前に、就職先として関心の高い業界や企業への理解を深めるために参加したいと考える学生が多いようだ。一方で、「就職準備イベント(合同説明会)」に参加する(46.9%)など、視野を広げて新たな企業を探そうとする学生も少なくない。

＜2月の行動予定＞



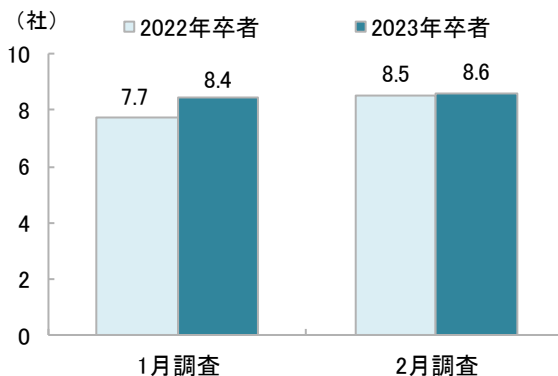
なお、調査時点で「エントリーをしようと決めている企業がある」という学生は全体の8割を超えている(80.4%)。1月調査(70.9%)からの1カ月で約10ポイント増え、就職先として志望する企業のリストアップが着実に進んでいることがわかる。具体的にエントリーを決めている企業数は平均8.6社。

＜エントリーを決めている企業＞



※( )内は2021年2月調査の数値

＜エントリーを決めている社数＞

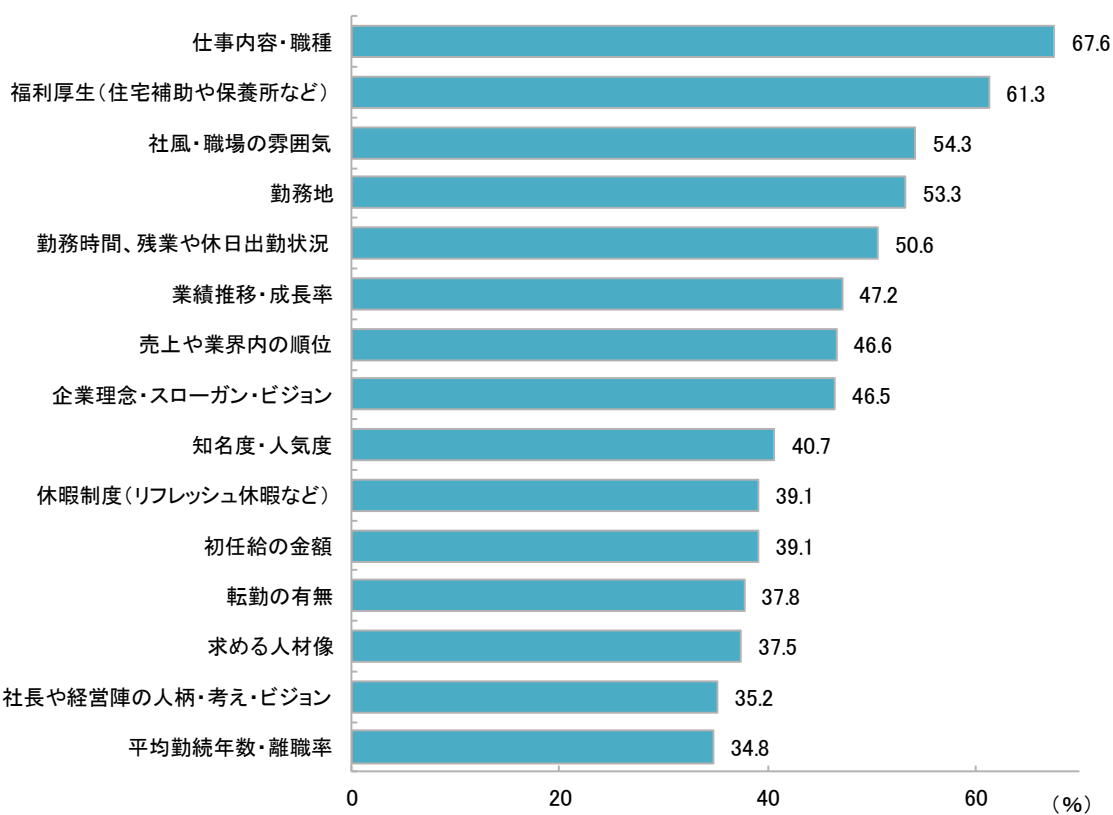


#### 4. 企業を判断するために知りたいこと

就職先の候補として興味を持てるかどうかを判断するために、企業のどんな情報を知りたいと思っているのかを尋ねてみた。あてはまるものをすべて選んでもらったところ、最も多かったのは「仕事内容・職種」で、7 割近くが選んだ (67.6%)。次いで「福利厚生」(61.3%)、「社風・職場の雰囲気」(54.3%)、「勤務地」(53.3%)と続き、「勤務時間、残業や休日出勤状況」までが半数を超える (50.6%)。採用広報解禁に向け、企業には様々な情報発信が求められそうだ。

これを文理男女別に見ると、女子は全体的に数値が高く、多くの項目を選択。様々な角度から企業を判断しようと考えていることが読み取れる。但し、「知名度・人気度」は男子の方が高い。また、理系は「売上や業界内の順位」や「業績推移・成長率」が文系に比べ高いなど、属性により特徴が見られる。

##### <就職先の候補として興味を持てるかを判断するために知りたい情報>



※全31項目のうち、上位15位まで

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
仕事内容・職種	67.6	62.8	72.4	67.9	68.0
福利厚生 (住宅補助や保養所など)	61.3	55.1	67.9	58.2	68.7
社風・職場の雰囲気	54.3	44.4	63.4	52.1	63.3
勤務地	53.3	43.5	63.4	49.4	63.3
勤務時間、残業や休日出勤状況	50.6	43.0	57.5	49.1	57.8
業績推移・成長率	47.2	46.0	44.8	49.7	51.0
売上や業界内の順位	46.6	44.4	42.5	51.2	53.7
企業理念・スローガン・ビジョン	46.5	44.7	53.0	39.1	51.0
知名度・人気度	40.7	43.5	36.8	45.0	33.3
休暇制度 (リフレッシュ休暇など)	39.1	34.4	45.5	38.5	36.7
初任給の金額	39.1	33.7	44.5	35.6	48.3
転勤の有無	37.8	30.2	47.8	30.9	48.3
求める人材像	37.5	31.6	42.5	35.6	44.9
社長や経営陣の人柄・考え・ビジョン	35.2	33.5	40.5	29.7	38.1
平均勤続年数・離職率	34.8	30.2	39.1	34.1	38.1

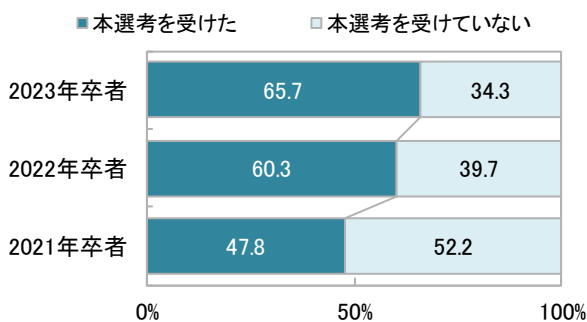
### 5. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況

2月1日時点の本選考(採用選考)の受験状況を尋ねた。筆記試験や面接など「本選考を受けた」という回答が65.7%に上り、前年同期調査(60.3%)を5.4ポイント上回った。本選考受験経験者を分母とした受験社数の平均は3.5社。また、本選考受験者の8割近く(79.7%)が、その中にインターンシップ参加企業があると答えた。

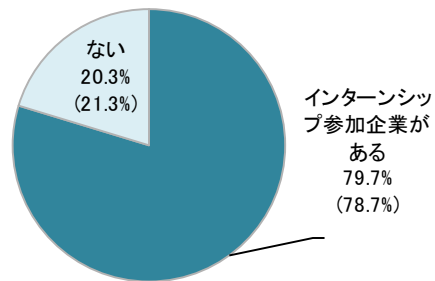
内定状況については、「内定を得た」との回答が20.2%。広報解禁1カ月前にもかかわらず、内定率は2割に達した。先月調査に引き続き、前年よりも速いペースで進行している。前年は内定率が2割を超えたのは3月調査であり(3月1日時点、21.1%)、1カ月近く前倒しで進んでいるようだ。なお、内定を得ても大半が就職活動を継続しており、調査時点で就活を終了した学生は全体の3.0%と少数。

文理別に見ると、本選考受験率・内定率とも文系より理系で高く、先行している様子が表れている。特に理系男子は約4人に1人が内定を手に入れている(24.7%)。

＜2月1日現在の本選考の受験有無＞



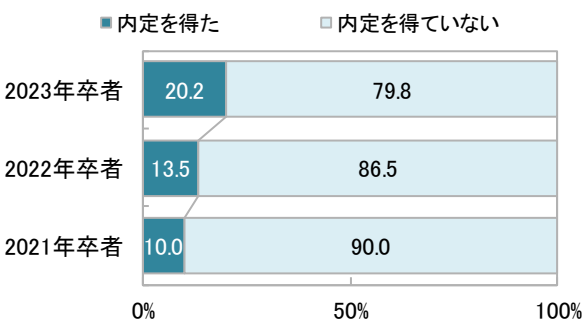
＜うち、インターンシップ参加企業の有無＞



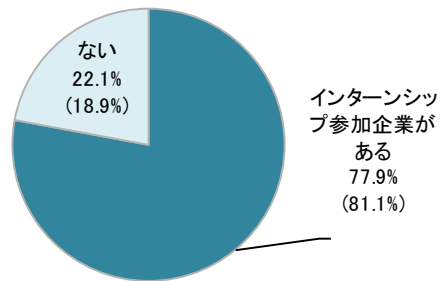
※( )内は2021年2月調査の数値

	全体	(1月調査)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	65.7%	49.2%	64.9%	62.9%	67.9%	70.7%
本選考を受けていない	34.3%	50.8%	35.1%	37.1%	32.1%	29.3%
選考受験社数(平均)	3.5社	3.2社	3.7社	3.8社	3.3社	3.1社
うち、インターンシップ参加社数(平均)	1.9社	1.7社	2.1社	2.2社	1.6社	1.8社

＜2月1日現在の内定有無＞



＜うち、インターンシップ参加企業の有無＞



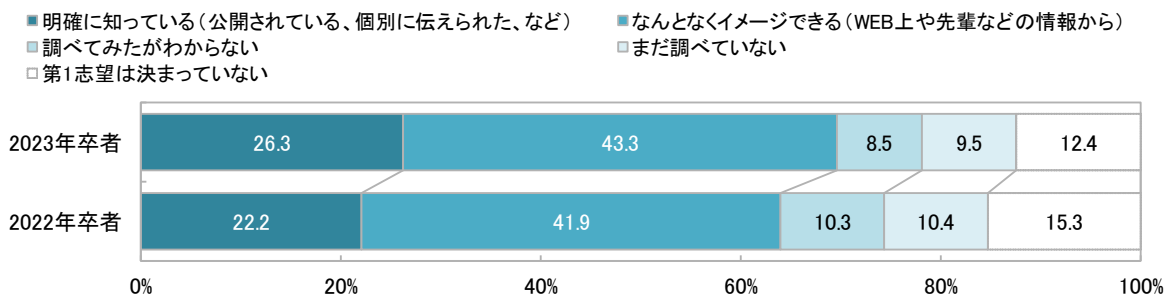
※( )内は2021年2月調査の数値

	全体	(1月調査)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	20.2%	13.5%	19.8%	16.7%	24.7%	21.1%
内定を得ていない	79.8%	86.5%	80.2%	83.3%	75.3%	78.9%
内定社数(平均)	1.5社	1.4社	1.5社	1.5社	1.4社	1.5社
うち、インターンシップ参加社数(平均)	1.1社	1.0社	1.1社	1.1社	1.1社	1.1社

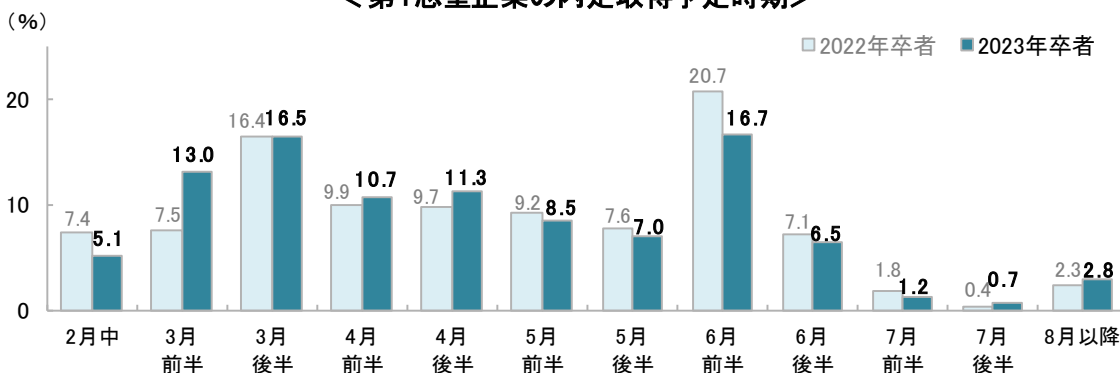
## 6. 志望企業の選考スケジュールの認知状況

現時点の第1志望企業について、選考スケジュールを知っているかを尋ねたところ、「明確に知っている」という学生は2割強(26.3%)。「なんとなくイメージできる」(43.3%)を合わせると、約7割(計69.6%)が認識していた。その企業から内定が出る場合に、いつ頃をイメージしているかを重ねて尋ねると、選考解禁直後の「6月前半」(16.7%)が最も多かった。現状では進捗の早さが目立っているが、本命企業の内定はやはり6月と認識している学生が少なくないことがわかる。ただし、前年調査(20.7%)より4ポイント下がり、「3月後半」(16.5%)とほとんど差がなくなった。

＜第1志望企業の選考スケジュールの認知状況＞

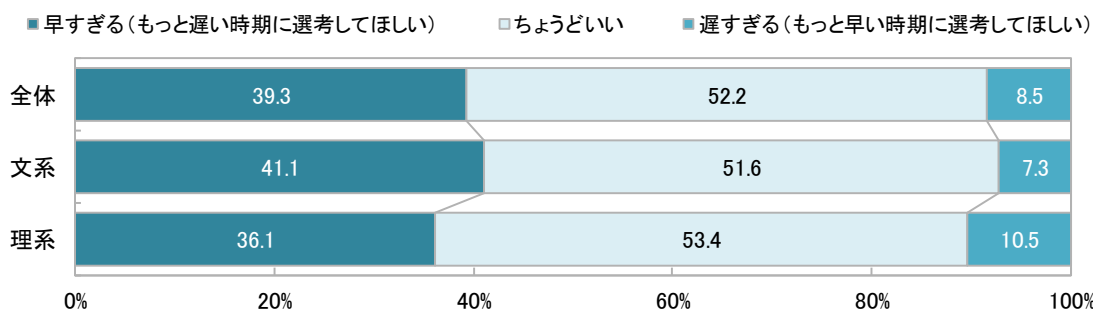


＜第1志望企業の内定取得予定時期＞



志望企業に限らず、今の企業の動き(選考時期)についての考えを尋ねた。「ちょうどいい」が過半数を占めるものの(52.2%)、4割の学生が「早すぎる(もっと遅い時期に選考してほしい)」と回答(39.3%)。早く内定を得て安心したい一方で、想像以上に早いスケジュールに準備が追いつかず、焦りを感じる声が多く挙がった。(コメントは次ページに掲載)

＜企業の採用活動の動きをどう思うか＞





## ■企業の動きへの意見

### 【早すぎると思う理由】

- 冬のインターンに参加する間もなく選考が始まっているため。 <理系男子>
- 第一志望企業の選考が始まってしまったが、授業がまだ詰まってお、準備がまったく間に合わない。 <理系女子>
- 3月の就活解禁のルールをきちんと守っている企業の情報が十分に揃わないうちに早い企業の選考が始まるため、志望企業を絞りきれないまま本選考を迎えることに不安を感じてしまう。 <文系男子>
- 正直準備が追い付いていない。業界によって差がありすぎるのも困る。 <文系男子>
- オンラインやコロナによってどんどん早くなっていくことに驚いている。 <理系男子>
- 日系企業も2月1日に本選考の案内を一斉にしてきた。3月1日情報解禁とは何だったのか。 <文系男子>
- 早期選考などの時期が不明瞭で、焦りが増す。 <文系女子>

### 【ちょうどよいと思う理由】

- 夏から就職活動準備を始め、この時期にちょうど準備が整ったから。 <理系男子>
- これ以上早すぎるのは学業に支障が出るので、夏にインターンに参加した企業から早期選考の案内が来るくらい、今くらいの動きでちょうど良いと感じる。 <文系女子>
- 3月の情報解禁までに1つでも内定をもらえたら、少し心や時間に余裕を持って第一志望の会社に挑めるから。 <文系女子>
- 早期選考をスタートしている企業で、本命企業の練習ができるため。 <理系女子>
- 春休みの時期に選考が行われて就職活動を終了することができれば、卒業までの1年間は研究に打ち込むことができるからです。 <理系男子>
- それぞれの企業が別々の時期に選考をしてくれることにより、ESの出す量を分散できるため。 <理系男子>

### 【遅すぎると思う理由】

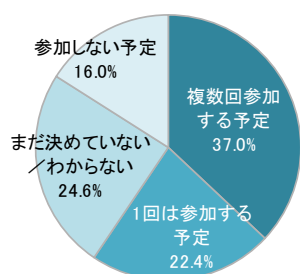
- 業界によって選考時期が様々なところが、幅広い業界に視野を向けている就活生にとっては辛いと思う。 <文系女子>
- 単純に就職期間が長すぎるから。夏インターンから開始して、約1年近く就職に拘束されるため、やりたいこともできない。 <文系男子>

## 7. 合同企業説明会／学内企業説明会への参加予定

3月の採用広報解禁後に開催される合同企業説明会について参加（視聴）意向を尋ねたところ、全体の4割近く（37.0%）が「複数回参加する」と回答。「1回は参加する」（22.4%）を合わせると、参加予定者は約6割に上る（計59.4%）。すでに本選考を受け始める一方で、新たな企業との出会いを求めて、イベントの活用を考えている学生も少なくないことがわかる。

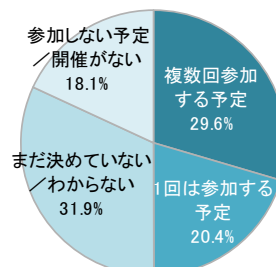
### <3月以降の合同説明会への参加予定>

合同企業説明会



※オンラインを含めて回答

学内企業説明会





## 8. 働き方についての考え

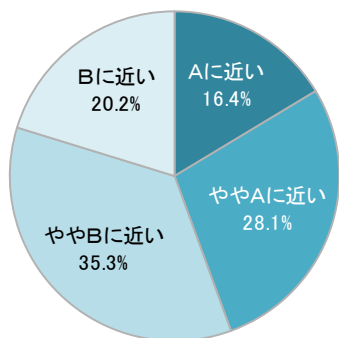
働き方の4つの指標について対照的な項目示し、現時点での希望に近い方を選んでもらった。

まず、「1つの分野で専門性を高めたい」と考える学生は合わせて44.5%。「幅広い業務を経験したい」という学生の方が多い(計55.5%)。一方で、「キャリアパスは自分で主導権をもちたい」が合計で7割超に上り(73.7%)、「会社に任せたい」(26.3%)を大きく上回る。様々な業務を経験したうえで、自律的にキャリアを形成していきたいと考える学生もいるのだろう。

出世意欲については「仕事が多少忙しくても早く出世したい」が4割強(計43.9%)。「出世するより自分のペースで仕事がしたい」(計56.1%)が10ポイント以上上回る。ワークライフバランスを意識する学生が多いようだ。転勤意向は、「転勤したい」が3割弱に対し(28.7%)、「転勤したくない」が7割超と大半を占める(71.3%)。男子に比べ女子で「転勤したくない」のポイントが高い。

### <働き方についての考え>

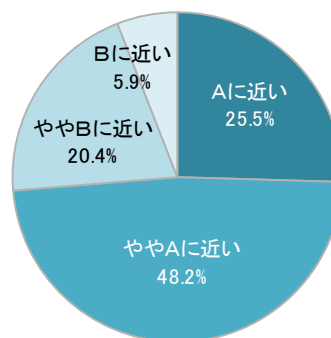
A: 1つの分野で専門性を高めたい  
B: 幅広い業務を経験したい(ジョブローテーション)



(%)

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	14.9	17.4	18.8	12.2
ややAに近い	28.4	25.6	29.1	31.3
ややBに近い	33.7	36.8	35.3	36.1
Bに近い	23.0	20.1	16.8	20.4

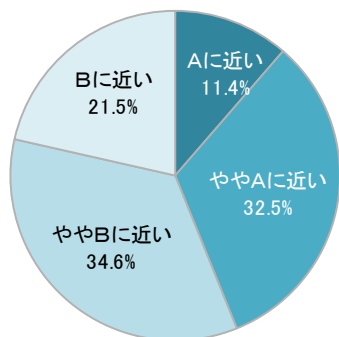
A: キャリアパスは自分で主導権をもちたい  
B: 会社に任せたい



(%)

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	26.3	24.6	25.9	24.5
ややAに近い	48.1	45.8	51.8	46.9
ややBに近い	20.0	23.4	17.1	21.1
Bに近い	5.6	6.2	5.3	7.5

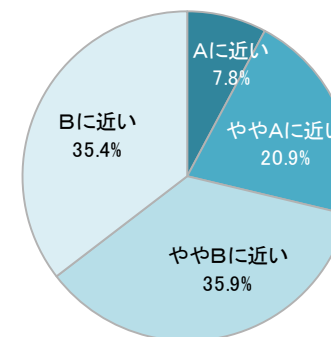
A: 仕事が多少忙しくても早く出世したい  
B: 出世するより自分のペースで仕事がしたい



(%)

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	15.6	6.2	15.0	4.8
ややAに近い	32.1	28.9	38.2	30.6
ややBに近い	31.2	38.6	34.1	35.4
Bに近い	21.2	26.4	12.6	29.3

A: 転勤したい  
B: 転勤したくない(1つの拠点にずっといたい)



(%)

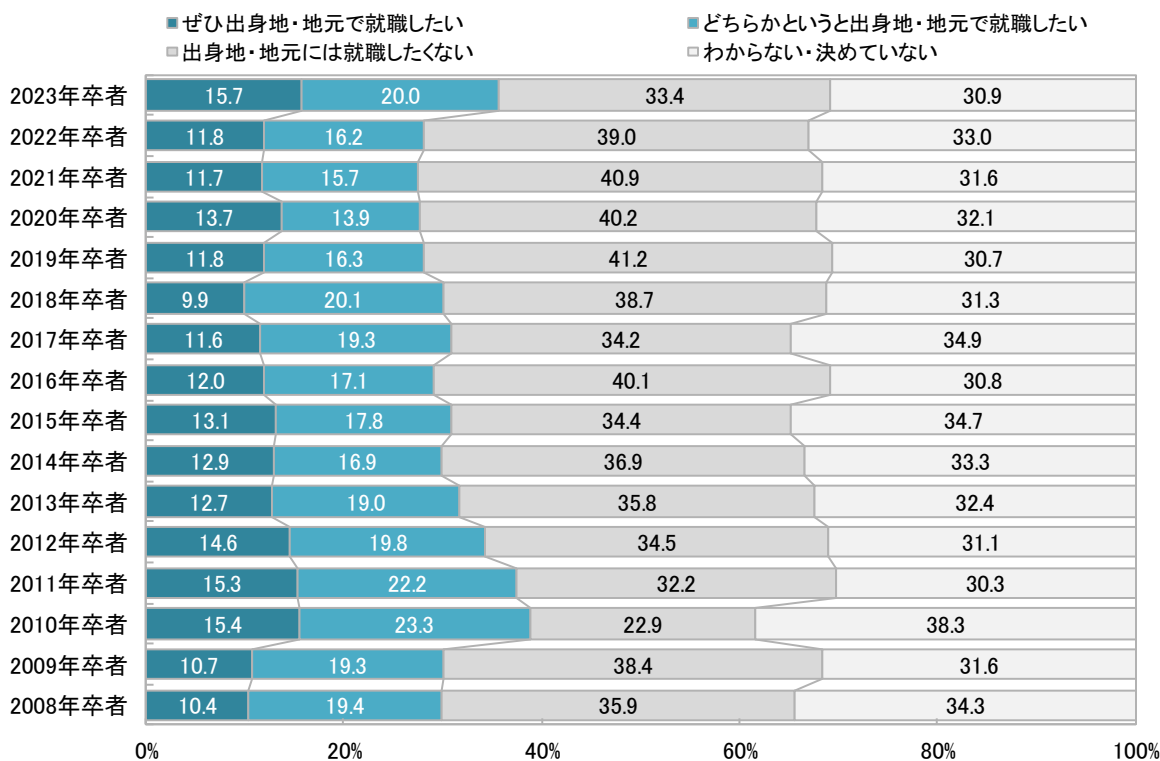
	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	10.5	6.5	6.5	6.8
ややAに近い	26.7	16.4	20.0	18.4
ややBに近い	35.1	35.6	40.3	28.6
Bに近い	27.7	41.5	33.2	46.3

### 9. Uターン就職の希望状況

出身地・地元を離れて進学している学生 (=地元外進学者、モニター全体の 39.0%) に、Uターン就職を希望しているか否かを尋ねた。「ぜひ出身地・地元で就職したい」(15.7%)と「どちらかというと出身地・地元で就職したい」(20.0%)を合わせたUターン就職希望者は35.7%。ここ数年は2割台後半が続いていたが、5年ぶりに3割を超えた。コロナ禍をきっかけに地元志向が強まった可能性のほか、就職活動のオンライン化が進んだことで、移動がつきものだったUターン就活のハードルが下がったことも背景にあるだろう。

Uターン就職をしたい理由で最も多いのは、「出身地・地元が好き／暮らしやすい」(52.7%)で、「出身地・地元に貢献したい」(49.5%)が続く。「志望企業が出身地・地元にある」は26.6%にとどまり、具体的な志望先がある学生はまだ少ないようだ。

#### <Uターン就職意向>



※出身地・地元を離れて進学した者が回答

#### <Uターン就職をしたい理由>

